

コード	名 称	区分	コード	名 称
事業名	125 芭蕉祭執行等経費	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
		目	08	芭蕉顕彰費
基本 施策	35 文化・芸術により、豊かな感性と創造性を育む	細目	133	芭蕉顕彰経費
		細々目	51	芭蕉祭執行等経費
行革大綱の重点事項番号		7		
担当部課	コード	11300		担当者
	名称	企画総務部企画課		氏名
				福島 礼子
				連絡先
				22 - 9621 (内線) 2115

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	芭蕉翁を顕彰する人 園児、小学生、中学生、高校生(主に市内の学校、園)	※対象件数
成果(どうする)	世代に関わらず松尾芭蕉を顕彰することができる。 俳句の普及とともに伊賀市をPRできる	
根拠法令・要綱等	俳文学関係著作に係る文部科学大臣賞授賞に関する要綱(文部科学大臣賞の授賞のみ関係)	
開始年度	平成	年度
終了年度	平成	年度
関連事業		
H21 事業 内容	(財)芭蕉翁顕彰会に事業委託をし、市との共催で10月12日に事業を実施。 ①記念講演会 ②墓前法要等 ③式典(上野公園内俳聖殿前広場) ④芭蕉祭行事(市内各地) ⑤協賛行事(市内各地) ⑥義仲寺展覧 ⑦芭蕉さんを偲ぶ会(市内各小学校)	
社会情勢 の変化等	式典のケーブルテレビ及びインターネット生放送を取りやめ、委託料を900千円減額した。 これまで委託業務に含まれていた俳文学関係著作に係る文部科学大臣賞選考委員会と子ども俳句大会を19年度より行政で行うこととなり、これに係る必要経費を予算化した。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
			目標	実績	目標	実績
芭蕉祭ポスター掲示部数	部	目標	350	350		
		実績	350	370	370	370
芭蕉祭市民バンド練習回数	回	目標	10	10		
		実績	10	9	10	10

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
				目標	実績	目標	実績
芭蕉翁詠俳句投句数	句	投句数の増が俳句の浸透を表す指標となる	目標	45000	45000	45000	45000
			実績	43614	40408	45000	45000
芭蕉翁詠俳句投句数(一般)	句	投句数の増が俳句の浸透を表す指標となる	目標	15000	15000	11000	11000
			実績	12804	10784	11000	11000

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)		(千円)		(千円)		(千円)	
直接事業費計(A)	9,865		9,326		9,569		9,570	
Aの 財源 内訳								
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源	9,865		9,326		9,569		9,570	
事業投入人件費(B)	0.6人	4,320	0.6人	4,320	0.6人	4,320	0.6人	4,320
フルコスト(A)+(B)	14,185		13,646		13,889		13,890	

事務事業の評価(Check)

	判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業 個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業 特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業 事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業 市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業 市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業 国や県、民間が同様のサービスを提供している事業 市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業 民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業 受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業 事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れている事業 【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	芭蕉顕彰事業を通して芭蕉が育んだ文化を後世に 伝承することは、松尾芭蕉の生誕地として、今後の伊 賀市文化の発展にも関ることであり、芭蕉翁を核とし たまづくり推進のためにも必要である。また、伊賀 市を国内外へ発信することができる。
	財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業 【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
有効 性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高 サービス水準や対象を見直す余地がある。	芭蕉顕彰に寄与する事業である。
達成 度	当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率 性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】しぐれ忌事業 受益者負担を求めることができる事業である。 全体コストにおける負担構成は適正である。 コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	松尾芭蕉顕彰事業として類似事業があるが、それぞ れ地域住民が取り組む事業として定着していること から事業統合は難しい。また、現在の事業規模・内 容では、これ以上の予算減額は難しい。

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	文化伝承の視点から「芭蕉祭」は引き続き実施する必要があるが、業務内容や委託内容の整理・委託先の見直しを行う必要がある。
【状況】	計画のとおり進んでいる
【詳細】	
昨年度の 取組状況	業務内容や委託内容の整理、委託先の見直しを行い、芭蕉祭執行に係る委託料を運営業務委託と式典会場設営撤去等業務委託に分け発注した。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	増田 基生
【方向性】	現状維持
【理由】	
事業の方向性	文化伝承の視点から事業を継続する必要がある。
現時点における 課題、その他	芭蕉祭運営業務を財団法人芭蕉翁顕彰会へ業務委託しているものの、共同開催として事業を実施していることから、事業の見直しには同財団との協議が必要である。 芭蕉祭当日に複数の行事を実施していることから、参加者数が少ない行事等がある。
課題、その他に 対する改善策 (いつまでに、何 を、どうする)	25年度までに委託業務内容の見直しを行い、芭蕉祭個別事業において参加者実績が低い行事の廃止を検討する。